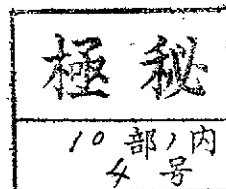


秘密指定解除

外交記録・情報公開室



大平大臣、ライシャウアー大使
 会談の件（日韓関係） 昭和37. 7.31
 アメリカ局

7月31日午後3時ライシャウアー大使は、エマソン公使を帯同、大平大臣を来訪、約35分間
 にわたり、日韓関係につき以下のとおり会談した。

なお、双方の出席者は、

日本側 大平大臣、安藤アメリカ局長、伊関アジ
 ア局長、島内参事官、菊地秘書官、角谷
 事務官

米側 ライシャウアー大使、エマソン公使

1. まずラ大使より、本日は自分の方から会談を
 申込んだので、自分の方から話の口火を切るこ
 ととしたいが、実は新内閣の日韓関係に関する
 考え方、御方針を伺いたい次第である、と述べ
 た。

2. これに対し大臣より、日韓関係については私
 も心配している次第である。韓国に対しては、
 参議院選挙あり、内閣改造あり、ということ
 で待つてもらっていたわけであるが、内閣改造後
 杉、バイ代表の間で、改造が終了してなお日韓

關係混迷ということでは困るという話もあり、特に杉代表もこの際やつてほしいという考えであり、パイ代表も予備交渉に応ずるという弾力的態度を有しているので、私も關係調整、党の意向をとりまとめ、本問題を解決に持つて行きたいと考えている。おれおれはこの問題を誠実に処理すべく努力するが、しこうしてその過程において米側の要望には耳を傾けるものであるが、同時に米側においても、おれおれと同様な関心をもつてアドバイスをいしあつせんしてもらいたい、と述べた。

3. 次にでラ大使より、タイムスケジュールにつき any clear idea があるかと質問した。

これに対し大臣より、タイムスケジュールというよりなものはないが、私としては党、政府關係者と個別に話しを始めねばならぬと思つている。しこうして来月からの臨時国会中でも予備交渉に移ることは差支えない。予備交渉の結果は勿論わからぬが、これが順調に行けば通常国会に關係案件の承認を求めねばならぬので、

通常国会に間に合うように交渉を行ないたいと思つている。

(ラ大使の質問に答え) 予備交渉は杉、バイ代表間で行なう。交渉地は東京であるが、必要ならば京城でも結構である。通常国会は普通/月^末からビジネスが行なわれる。など述べた。

4 次いでラ大使より、バイ代表及び韓国方面よりの情報によれば、韓国が本問題解決のために最も希冀しているものは definite figure of financial aid (もつとも aid といつても、これには3つ位のカテゴリーがあることと了解している。要するに各目は別として、韓国に支払われる金額全額の確定数字である。) と考えられるが、日本側のお考えいかんとたづねた。

これに対し大平大臣より、金額もさることながら、方式が一番問題である (not sum but formula)、カテゴリーが2つあつても3つあつても、力点のおきどころが日韓間で異なるのがミソである。日本側よりばかり information をとらうとしないうで、なにかアドバイスをして頂きたいと述べた。

5 ラ大使より、日本側より韓国側にオファーされた数字は ~~7千万ドル~~ というようなことを言っているが、私の個人的な意見では、この数字は現実的な数字ではないと思う (not realistic figure)) と述べたので、大臣より何故かと質問したところ、40年におたる日本の植民地の歴史からである (40 years' colonial history makes it unrealistic) と述べ、米は現在年に4億ドルの金を韓国に支出していると付言した。これに対し大臣より、分離国家の例は世界でもほとんどない。ドイツとオーストリーの間がそれにあたると思うが、オーストリーにあるドイツ資産は、ドイツに返還されていると指摘した。

6 ラ大使より、議論をする考えはないが、たとえば請求権と援助を併せて援助という一本の項目にしたらどうか (たとえば援助とし、請求権を含むというようにしたらどうか。) と発言、大臣より、請求権といういかめしい形をとるといろいろ問題があるので、私がさきに formula が問題だといつたのもそのような理由からである

る。請求権というからには、事実関係も明らか
にせねばならぬし、半島の北半分のことも考え
ねばならぬ。よつて sizable sum でがまんしろと
いつているわけであると述べた。

~~なお、伊関局長より、7千万ドルは最大限で、
大蔵省は1千万ドルといつている次第であると
述べた。~~

7. 大臣より、日本側としては根本的にいつて、
本問題の解決を延引しようというよりの考えは
全くない。早く解決したいと思つてゐるが、解
決することに真面目に努力すればするほど、韓国
からみてお気に召さぬことがあるかも知れぬが、
事をなすに当つてはそれもいたしかたなきこと
と思う。韓国がお喜びになることをいうのはた
やすいが、それでは何事もなしえないと述べた。

8. 牙大使より、もしここ数カ月 (a next few
months) の間に解決がみられたければ、今後多
年にわたつて本問題は解決しえないこととなろ
う。この数カ月がいわば最後のチャンスである。
このことは韓国の情勢をみれば明らかである。

韓国側には交渉につきフレキシビリティがある
と思う。ただ彼らはそれを *hate to show us* であ
ると思うと述べた。

これに対し大臣より、日本側としてもその間
の事情は十分心得ている。ハラはきめてかかる
積りでいい加減なことはしない。米側も韓国側
を説得するより努力願いたいと述べた。

ヲ大使はこれに対し、金額は重要でなく、国
交正常化が重要な次第であると述べ、今後とも
本件に関する進展振りを御連絡願いたいと述べ
て会談を了した。

9. なお、本会談について、外部には明8月1日行
なわれる安全保障協議委員会に関する議題、進
行等の打合せを行なつたと説明することに打合
せた。